

令和元年度第2回 尼崎市スポーツ推進審議会 会議録（要旨）

- 日時：令和元年10月23日（水）午前10時25分～午前11時41分
- 場所：教育委員会室
- 出席委員：6人
伊藤委員（会長）、河野委員（副会長）、坂本委員、村上委員、長岡委員、辻委員
- 事務局：5人
社会教育部長、スポーツ推進課長、スポーツ推進課係長（2人）、スポーツ推進課主事
- 傍聴者：なし

議題1

平成30年度事業実績報告について

委員 誘致大会の継続大会の観戦者数が増加していないとのことですが、種目別協会は、観戦者数の増加に向けた取組を行っていますか。

事務局 種目別協会につきましても、大会の広報を行っていただかなければならないと考えております。

委員 種目別協会は大会を誘致するだけでなく、大会の広報も含めた取組を行わないといけません。

委員 尼崎市としては、誘致大会の広報は行っていますか。

事務局 誘致大会の広報につきましては、市報・市ホームページでの広報や公共施設にポスター等の設置をさせていただいています。

委員 聖火リレーに関するイベントですが、現段階では、どのようなものを開催する予定でしょうか。

事務局 聖火リレーに関するイベントですが、ゴール地点である尼崎城址公園での開催を考えています。

委員 尼崎城址公園でのイベントとなると、どのくらいの規模を想定しているのでしょうか。

事務局 1,000人を見込んでいます。

委員 聖火リレーをより多くの市民に観ていただくことが重要になりますので、コースが決まり次第、市ホームページ等で公表し、市民に周知する必要があります。特に、子どもには聖火リレーを観ていただきたいので、近隣の小・中学校に声をかけるなどの取組を行ってください。

委員 スポーツ推進委員による、さわやか地域スポーツ活動についてですが、参加者のほとんどが高齢者となっていますので、他の年代の方にも参加していただけるよう、新たな種目による活動を考えていきます。

委員 施策評価の目標指標AからEまで全てに言えることですが、各事業の情報を紙ベースで学校に配布するなど、広報の強化が必要となってきます。

議題2

尼崎市スポーツ推進計画のたたき台について

委員 尼崎市は部活動の指導方法について問題となっていますので、ガバナンスやコンプライアンスについて、しっかりと記載した方がよいと思います。

事務局 部活動の指導方法につきましては、現在、体罰根絶に向けた有識者会議により再発防止策の検討

を行っておりますので、その検討結果に基づいた取組を行ってまいります。

委員 スポーツ指導者による体罰の防止についてですが、体育協会では、弁護士を講師とした講習会を実施しました。

事務局 先ほど委員からお話しがあった通り、体罰の防止を題材にしたスポーツ指導者講習会を実施しました。また、スポーツクラブ21に対しても、コンプライアンスの徹底を題材にした研修会を実施しており、今後も継続した取組を行ってまいります。

委員 「ゆる部活」についてですが、一般的に周知されている言葉なのでしょうか。

委員 教育やスポーツ関係者については知っている方が多いと思いますが、市民からすると馴染みがない言葉になるかもしれません。「ゆる部活」という言葉を使用するのであれば、注釈等に説明文を記載する必要があります。

委員 「ゆる部活」とはどのようなものですか。

事務局 「ゆる部活」とは、子どもが少しでも体を動かす機会となるよう、サークル的な活動によりスポーツを行うことです。

委員 「スポーツを行う場所の充実」に、施設の設備について色々と記載されていますが、記載内容の実現は可能でしょうか。

事務局 施設の設備につきましては、記載内容の方向で話しが進んでいるものとなります。予算等の都合により一度に実施することはできませんが、10年の間に行っていきたいと考えています。

委員 スポーツ推進計画に記載されている目標ですが、これまで通りの取組では達成することが難しいと思いますので、少しでも工夫しながら事業を実施していただきたいです。

委員 小・中学校体育研究会による「尼崎市体力向上プラン」についてですが、策定状況はどのようになっていますか。

事務局 「尼崎市体力向上プラン」についてですが、小・中学校体育研究会により策定に向けた作業を行っていますが、現段階でお示しできるものはありません。

委員 計画としてはいつ頃策定予定となりますか。

事務局 来年度中を目途に策定すると思います。

委員 策定されれば審議会に報告していただけますか。

事務局 策定されれば審議会に報告させていただきます。

委員 「尼崎市体力向上プラン」は、体力向上に向けたプログラムを策定し、各校で実施することになりますか。

事務局 体力向上に向けた取組内容を整理し、全校が統一的な考え方のもとで実施していくことになると思います。

以上